

日本における自然保護の近年の流れ

SDGsや自然資本といった世界的な流れ
自然を資源として利用していく



30by30や自然共生サイトでの保護区が増えていく
野生動物の資源管理の考え方が重要



自然保護とは

自然を**人間の**ために、よい状態で保存し、荒廃しないように利用・維持・管理をし、ひいては改造することまで含めた広義の概念である。その自然は、人間と敵対関係にある自然ではなく、人間がその一員である生態系の構成要素であり、自然保護とは生態系の保全に他ならない(沼田1973)



沼田 眞

生活必要物資の供給源としての自然—生物資源—の保全に加え、多種多様な生物資源を生み出す根源としての遺伝子の保存(吉良1976)



吉良竜夫

自然保護とは

・現代の自然保護思想(日本における)
→人と関係も含めた生態系の保護



環境省自然環境保全地域HP

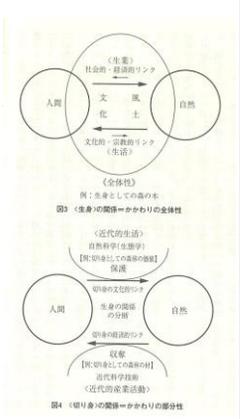
一方で **原生的な自然(ウィルダネス)** をイメージする

自然(環境)の捉え方と3つの考え方が提唱されている

- ①自然環境主義
自然環境、特に人の手が加わっていない自然を保持していくことによって解決しようという考え方
- ②近代技術主義
環境問題に対して近代科学技術の発展によって解決しようとする考え方
- ③生活環境主義
当該地域に居住している居住者の立場から生活文化論的に考えていこうとする考え方

自然保護とは

・社会的リンク論(鬼頭1996)
人間が社会的・経済的リンクと文化的・宗教的リンクのネットワークの中で、総体としての自然と関わりつつ、その両者が不可分な人間-自然系の中で、生業を営み、生活を行っているという理念



自然保護と利用についての事例

・事例紹介(白神山地)

1993年に世界自然遺産に登録

ブナ林が残り、イヌワシやクマガイなど希少な野生動物が息を絶する地域

環境省の自然環境保全地域に指定



青森県HP



青森県HP

自然保護と利用についての事例

・事例紹介(白神山地)

近世期の津軽藩では木材利用

住民による持続可能な利用

- 薪炭生産
- 山菜・キノコの利用
- マタギによる狩猟



白神山地マタギ伝り

→1970年代以降利用が衰退

春秋林道の誘致などもあり保護運動につながった。さらに世界遺産登録後も入山禁止を主張するグループと住民の利用や登山・釣りによる入山を容認するグループ間での対立(原生的な自然 vs 適切な利用)があった。

自然保護と利用についての事例

・事例紹介（白神）

森林資源（狩猟や山菜）を利用
世界遺産地域では現在釣りは禁止

自然を資源として利用しつつ、共存
していくことが持続的な管理として
重要



林野庁HPより

講義の内容

- 自然保護の歴史やその概念
- 自然保護の考え方を踏まえた自然資源の利用と管理について

自然資源とは

○自然資源とは

自然の中に存在し、人間にとって価値あるもののすべて

価値のある事 ≠ 高価であること

自然を本来の基盤とする人類文明の存続が「至上命令」であることを意味する。

平成19年度自然資源の統合的管理に関する調査報告書
(文化庁)

人を自然の外のものとして捉えがちであるが、**自然の中のもの**と捉えることが重要。
加えて、自然資源は**公共のもの**と考えることが大事

自然資源管理とは

- ・流域あるいは比較的広域の地域を単位として自然環境の保全に配慮しつつ、森林、農地、緑地、保護地等の利用を総合的に行っていく仕組み
- ・地域の自然資源の管理は、自然の様々な恩恵を受けると同時に、自然災害も引き受けざるを得ない地域の住民、そしてその地域に様々なかかわりを持つ人々によって担われるべきである。
- ・かつて自然資源管理は地域においてボランティアに行われていたが、地域共同体の崩壊の中で意識的に再構築が必要となっている。

日本における自然資源の考え方

無主物占有・・・**所有者のない動産**（無主の動産）を所有の意思をもって占有することによって所有権を取得すること（民法第239条1項）

鳥獣や魚介類などは無主物にあたりと解釈される

鳥獣は私有地間を移動するので土地利用と切手は切り離せない。

→地域での管理していく必要がある。

日本における自然資源の考え方

事例) 神奈川県秦野市の里地里山利用

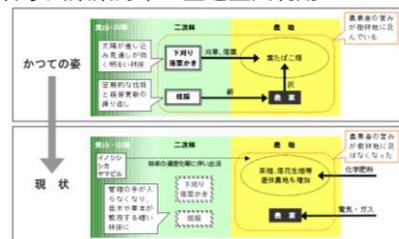
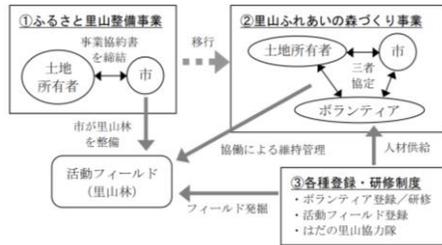


図 秦野市における里地里山の利用や物質循環の変化
環境省（自然資源の持続可能な利用・管理に関する手法例集より）

日本における自然資源の考え方

事例) 神奈川県秦野市の里地里山利用



環境省 (自然資源の持続可能な利用・管理に関する手法例集より)

野生動物管理と自然資源管理

- 野生動物ではどうか
- もともとは狩猟で自然資源管理がされており、鳥獣保護管理法の枠組みの中で管理されていた

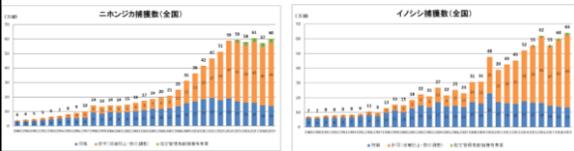
年	自然公園、自然環境の保護	鳥獣、野生動物	自然環境、野生動物	自然環境(自然公園、鳥獣、野生動物)の保護(鳥獣保護管理法)	環境教育(自然、都市、自然公園)	自然環境(自然公園、鳥獣、野生動物)の保護(自然公園法)
1975(昭50)						
1979(昭54)	公園法(公園法)の改正(公園法第18条)	鳥獣保護管理法(鳥獣保護管理法)の改正(鳥獣保護管理法第18条)				
1980(昭55)	公園法(公園法)の改正(公園法第18条)	鳥獣保護管理法(鳥獣保護管理法)の改正(鳥獣保護管理法第18条)				
1981(昭56)						
1982(昭57)						
1983(昭58)						
1984(昭59)						
1985(昭60)						
1986(昭61)						
1987(昭62)						
1988(昭63)						
1989(昭64)						
1990(昭65)						
1991(昭66)						
1992(昭67)						
1993(昭68)						
1994(昭69)						
1995(昭70)						
1996(昭71)						
1997(昭72)						
1998(昭73)						
1999(昭74)						
2000(昭75)						
2001(昭76)						
2002(昭77)						
2003(昭78)						
2004(昭79)						
2005(昭80)						
2006(昭81)						
2007(昭82)						
2008(昭83)						
2009(昭84)						
2010(昭85)						
2011(昭86)						
2012(昭87)						
2013(昭88)						
2014(昭89)						
2015(昭90)						
2016(昭91)						
2017(昭92)						
2018(昭93)						
2019(昭94)						
2020(昭95)						
2021(昭96)						

自然環境行政年表より抜粋 (環境省)

野生動物と自然資源管理

近年の捕獲状況の特徴

- 許可捕獲の割合が6~7割が近くまで増えてきている。
- 狩猟の割合は右肩さがり
- 指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲数も一定の割合を占める

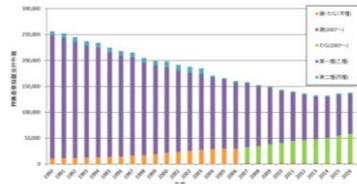


鳥獣関係統計より

野生動物と自然資源管理

近年の捕獲状況の特徴

- 狩猟者人口も減っている。
- 特に銃猟の減少が著しい。



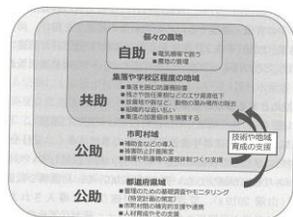
鳥獣関係統計より

➡ 新しい仕組み作りが必要！

自然資源としての野生動物

人を自然の中のもの、鳥獣を公共のものと捉え、利益を享受しつつ、適正に管理していく仕組みづくりを行政がサポートして必要がある

→主体はあくまで地域、市町村、都道府県が技術などの支援



藤谷ほか(2021)

自然資源としての野生動物

- 正の生態系サービス
- ジビエ (ハンティング)
- 葉
- 観光資源 (知床のヒグマ)
- 写真撮影



南アルプス生態村HP

自然資源としての野生動物

大牟田動物園での屠体給仕の取組

- 有害駆除のシカやイノシシを大型肉食獣に給仕
- 野生動物を利用することで、飼育動物のストレスを減らす
- 環境エンリッチメントとしての効果あり

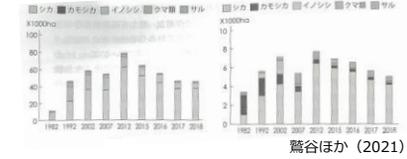


細谷 (2020) Wildlife Forum

自然資源としての野生動物

- 負の生態系サービス

農林業被害
生態系影響
交通事故
感染症



齋谷ほか (2021)



東京都第二種シカ管理計画 (資料編) より

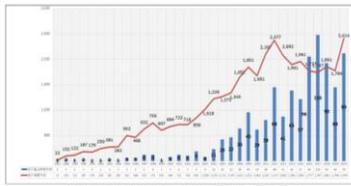
自然資源としての野生動物

- 負の生態系サービス

農林業被害
生態系影響
交通事故
感染症



北海道庁HP



JR北海道HP

自然資源としての野生動物

- 負の生態系サービス

農林業被害
生態系影響
交通事故
感染症

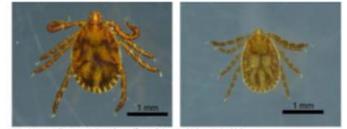
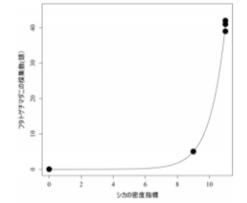


写真: 別冊で掲載されたフラタグマダマダニの雌成虫(左)、若虫(右)。



Suzuki et al 2022

正の生態系サービスとの均衡を保つことも重要

まとめ

- ▶ 自然保護と自然資源管理の考え方に基づくことで鳥獣保護管理の課題解決につなげることができる可能性がある。
- ▶ 適正に管理をすれば地域に様々な利益を生み出すことができる
- ▶ どのように自然資源として利用していくか改めて考え直し (例: ゾーニング管理)、野生動物管理の中で位置づけていく必要がある。順応的管理につなげていく必要がある。

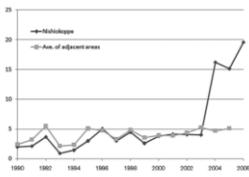


Figure 3. Right per unit area (RPUA), the number of deer adjusted average in the Hokkaido Special Stewardship Area and the average in the five adjacent municipalities in 1980/91-2006/07.

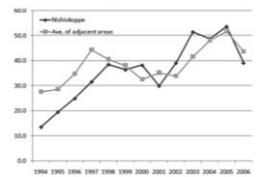


Figure 4. Change of spotted deer (Cervus mandchuricus) average of the number of deer per unit area in the Hokkaido Special Stewardship Area and the average in the five adjacent municipalities in 1984/91-2006/07.

Igota and Suzuki 2008